實入秋花野初萱 三編

應雲 麦題 曲亭馬琴

己酉新刻

上

へ13
3766
5

柳下亭種員譯

一雄齋國輝画

藤慶板

下

へ13
3766
6

へ13
3766
5

柳下亭種員作
歌川國輝画

刈萱三編 上之巻

藤慶板

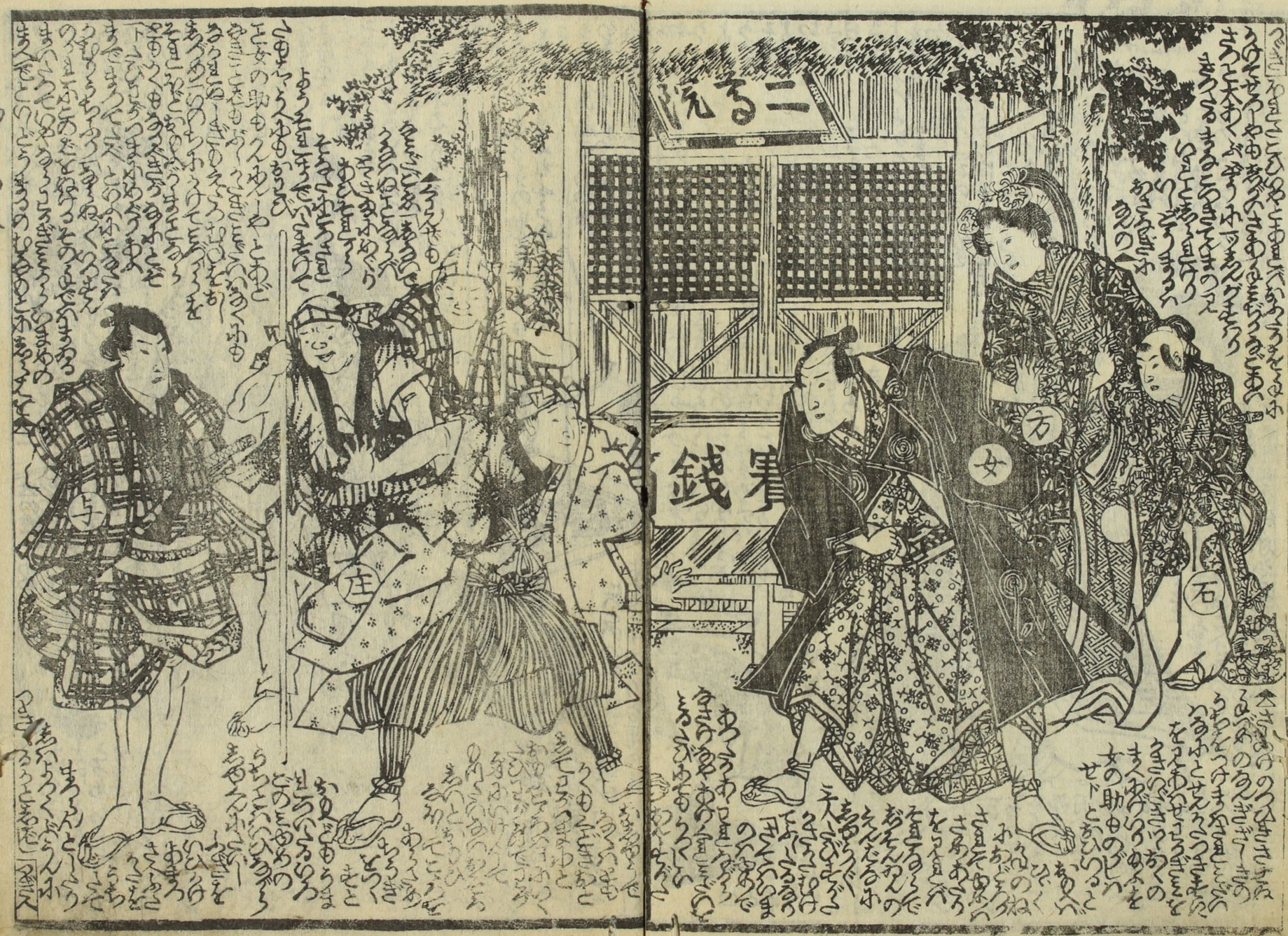
桃青翁が高野の吟ふ父母ぢ[illegible]維ふれ[illegible]」ゐる
嶮岨を石動が遥々の不動坂禁ふのる牧の方い身をかゝ
ゐる女人堂其はまこひふ巻久て女之助が狂ふ心の駒形一陸興治も昔い武士の八十瀬ふ[illegible]紀の玉川の磨
あふさる恩敷ト物いちが節義の縛縄と思ひ物ゐ主を持御廟
槁古監物太郎善悪ふさりい花坂と小田原谷の岐道直ゆゆで
蛇柳の大内之助が邪を諫めゐる新洞左衛門御法尊き
刈萱が古郷へゐる錦の袋淡いこまを筑紫の家産ふ下し賜
ゐる世継の勅書のがまも目出度國入の秋の角田の出来もよく
穂ふ穂積ゐる松林堂が蔵入物ゐを祝くふん

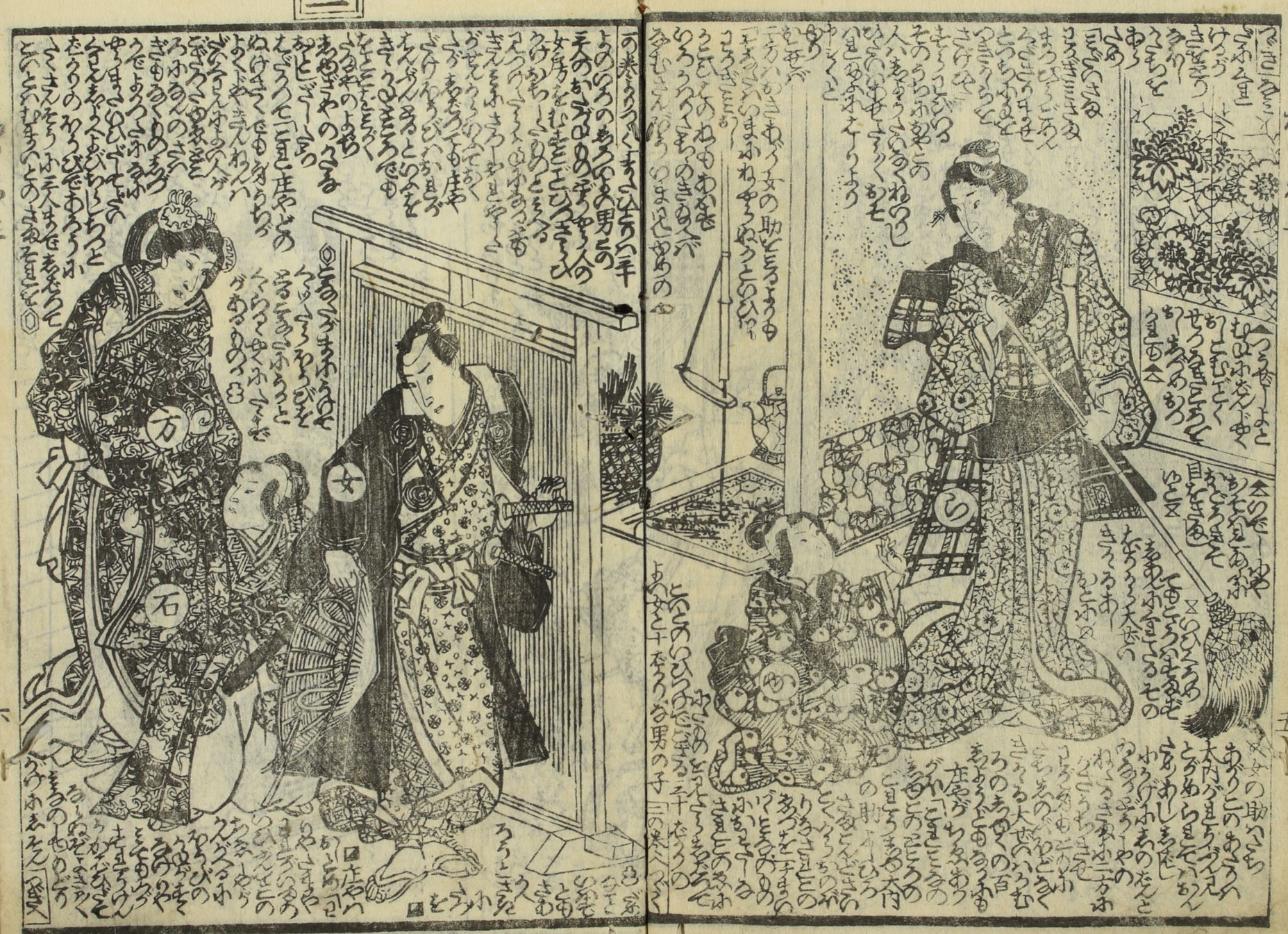
干時嘉永二年　酉歳春正月　柳下亭種員識

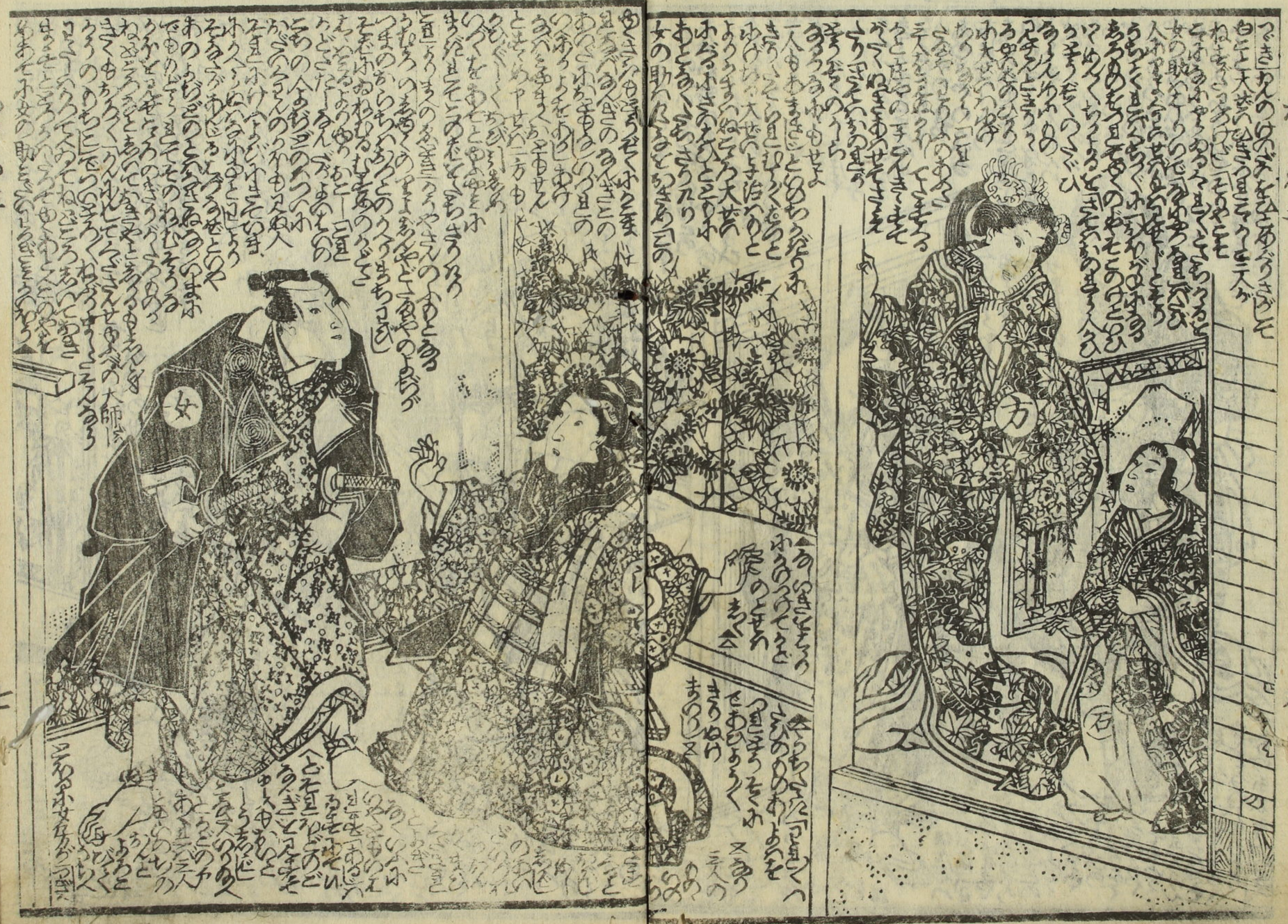
野山名昊集
我ふる
のうの
しき
ところ
とそ
島も
佛法僧
とのそ
ものも
御製
同宿喜悦坊
同宗悦坊
石動丸
野峯風土記
同安心坊
同義圓坊

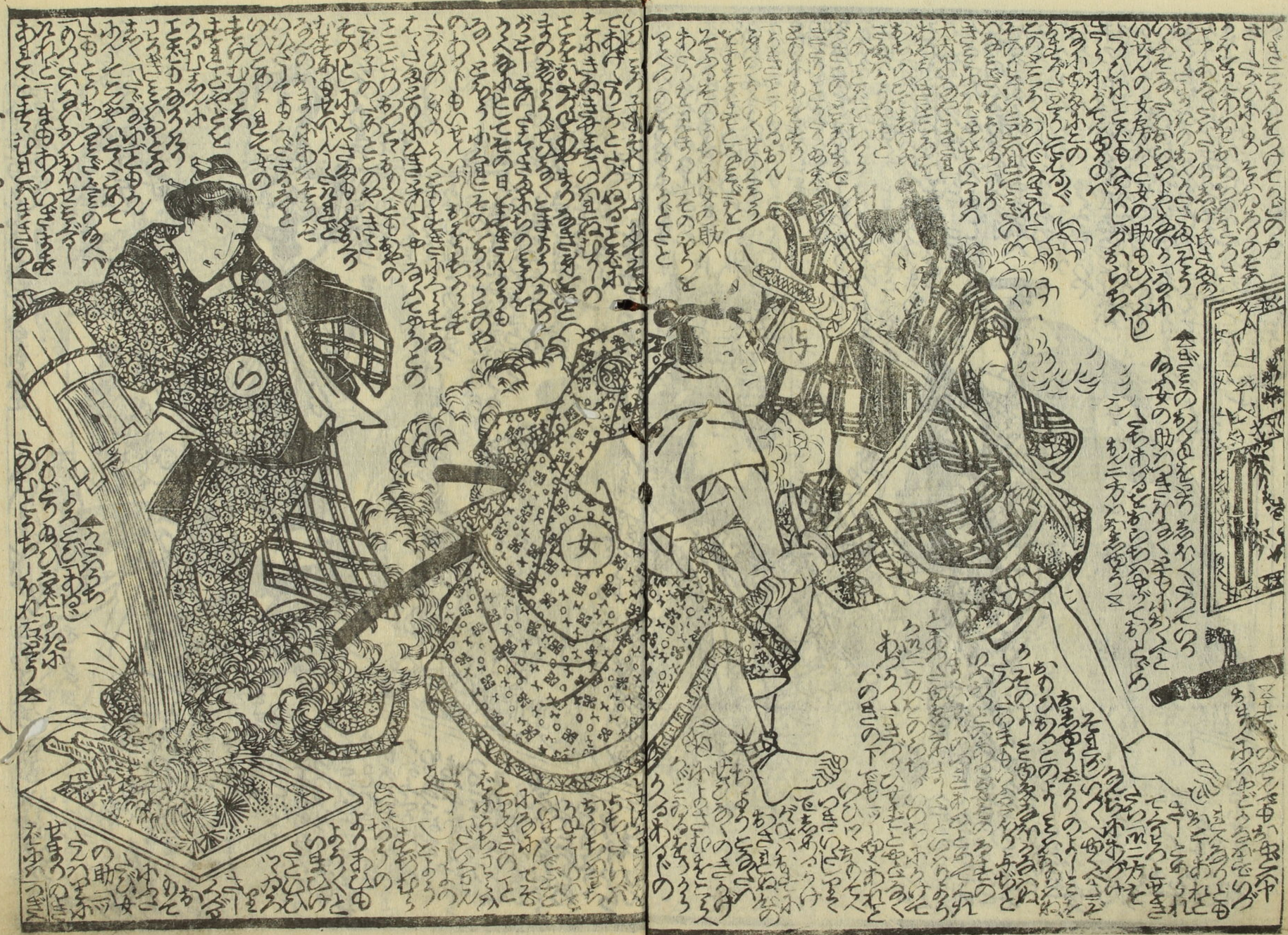
○大内家代官駒形一學
其先ハ遠江の浪士なり
○與治ゞ女房
お
ち
○紀伊國加牟漏驛旅店玉屋與治
其先
播磨の浮浪士
網干左膳と号し者なり

石
女
方


二るえ
賽銭
女
方
石
与
庄


二
女
石
方


女
方
右


女
ら
子

方
与
ら
女

種員筆談

新吉原 玉樓

製菓所 田町十手下 柳下亭

取次所

國輝圖画

忠孝雙蝶々編 後 種員作 豊国画

玉壺生肌膏

奇刀 帝

三の表へつづく

天女丸

一貫 五十文 半貫 廿四文

価 百二十四文

人参卵効油

仙傳

夜ぶか

引風 四季 調氣湯

一名

袋入 代廿八文

本家 江戸本町二丁目北側中程 式亭三馬製

柳下亭種員譯

一雄齋國輝画

下

藤慶板

へ13
3766
6

御廟橋
ゆるぎ草はん
柳下亭種員作
歌川國輝画

三

大
学

与

つゞき
右
左

つぎ
笠
石
方

龍王太郎英雄譚 四編 五編 六編 式亭小三馬作 一陽齋豊國画

五色染芋環母子 二編 式亭小三馬作 歌川豊國画

花白梅春風 初編 式亭小三馬作 三冊 一雄齋國輝画

昔新當世推故傳 初編 二編 立川焉馬作 歌川豊國画

東錦繪地本屋 江戸通油町南側 藤岡屋慶次郎